



2005年9月

NHK交響楽団 ヨーロッパ公演について

NHKとNHK交響楽団では、今年もヨーロッパツアーを実施することになりました。今回は、音楽監督ウラディーミル・アシュケナージの指揮で、5か国5都市で6公演を行い、各国との文化交流と国際親善を深める所存です。

また本年は「日・EU市民交流年」にあたり、NHK交響楽団の演奏会もこのイベントのひとつとして位置づけられ、EU市民との今後の長期的な交流の一端を担うことが期待されます。

2004年5月EUに加盟したハンガリーへは初めての訪問となりますが、昨年が続くドイツ・オーストリア、11年ぶりとなるポルトガル・スペインなど、歴史的にも音楽と繋がり深い都市での演奏会は、意義あるものになると確信しております。

公演日程 ほか

1. 派遣期間 2005年10月8日(土)～10月19日(水) 12日間
2. 派遣人員 120名
3. 出演 指揮 : ウラディーミル・アシュケナージ
ヴァイオリン : ワディム・レーピン [プログラム A・B]
ソプラノ : ソイル・イソコスキー [プログラム B]
4. 演奏曲目
[プログラム A]
ベートーヴェン/ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品61
ショスタコーヴィチ/交響曲 第8番 八短調 作品65
[プログラム B]
武満 徹/鳥は星形の庭に降りる
R.シュトラウス/4つの最後の歌
ドビュッシー/バレエ音楽「遊戯」
ラヴェル/「ダフニスとクロエ」組曲 第2番
[プログラム B']
ベートーヴェン/ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品61
ドビュッシー/バレエ音楽「遊戯」
ラヴェル/「ダフニスとクロエ」組曲 第2番
5. 公演地 10月11日(火) 8:00pm ベルリン(ドイツ)[プログラム A]
Berliner Philharmonie
10月12日(水) 7:30pm ウィーン(オーストリア)[A]
Gesellschaft der Musikfreunde in Wien
10月13日(木) 7:30pm ウィーン(オーストリア)[B]
Gesellschaft der Musikfreunde in Wien
10月14日(金) 7:30pm ブダペスト(ハンガリー)[B]
Place of Arts Budapest[National Concert Hall]
10月16日(日) 9:00pm リスボン(ポルトガル)[B]
Coliseu dos Recreios
10月17日(月) 7:30pm マドリード(スペイン)[B']
Auditorio Nacional de Musica
6. 助成 文化庁、国際交流基金、放送文化基金
財団法人ローム ミュージック ファンデーション
7. 協賛 アイシン・エイ・ダブリュ株式会社、NEC、松下電器産業株式会社



© K.Miura

指揮:ウラディーミル・アシュケナージ
Vladimir Ashkenazy, conductor

1937年7月6日、旧ソ連邦ゴリキー市生まれ。中央音楽学校を経てモスクワ音楽院でピアノを学び、1955年「ショパン国際ピアノ・コンクール」で第2位、1956年「エリーザベト王妃国際音楽コンクール」、および1962年「チャイコフスキー国際コンクール」で優勝という輝かしい受賞歴をもって、ピアニストとしてその音楽活動をスタートした。以来、今日まで、世界最高峰のピアニストとして、名実ともに君臨してきた。

1970年以降は指揮活動も活発に行うようになり、フィルハーモニア管弦楽団およびクリーヴランド管弦楽団首席客演指揮者、ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団音楽監督、ベルリン・ドイツ交響楽団首席指揮者・音楽監督のポストを歴任している。1998年から2003年にかけて首席指揮者を務めたチェコ・フィルハーモニー管弦楽団とは、演奏旅行、録音、特別プロジェクトなどを数多く行っている。

アシュケナージが初めてNHK交響楽団定期公演の指揮台に立ったのは、2000年10月のこと。自身の委嘱で作曲されたラウタヴァーラ（ピアノ協奏曲 第3番「夢の贈り物」）の弾き振りや、ベートーヴェン（田園）、シェーンベルク（ペレアスとメリザンド）など、多くの経験を積んだ音楽家ならではの充実した演奏が高く評価された。2004年9月、NHK交響楽団音楽監督に就任。これを記念した公演で演奏したベートーヴェン（交響曲 第4番）（交響曲 第5番）がCDリリースされている。

現在、NHK交響楽団音楽監督のほか、フィルハーモニア管弦楽団およびアイスランド交響楽団桂冠指揮者、EUYユース・オーケストラ音楽監督を務め、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団など、世界一流のオーケストラに客演を続けている。N響との外国公演は、昨年に次いで2回目となる。



ヴァイオリン:ワディム・レーピン
Vadim Repin, violin

レーピンの特徴は、何と言っても燃えるような情熱と完璧なテクニック、詩情と繊細さであり、今やヴァイオリン界の寵児としてその名声は定着している。

1971年、シベリア生まれ。5歳でヴァイオリンを習い始め、その僅か半年後に初めての舞台を踏んでいる。11歳でヴィニャフスキ・コンクール全部門で金賞を受賞し、モスクワと当時のレニングラードでリサイタル・デビューを果たす。1985年、14歳で東京、ミュンヘン、ベルリン、ヘルシンキにデビューし、翌年はカーネギーホールに登場。2年後、国際的に最も権威あるコンクールといわれる、「エリーザベト王妃国際コンクール」で最年少優勝者となった。以後、ベルリン・フィル、ボストン響、シカゴ響、クリーヴランド管、ミラノ・スカラ・フィル、ロサンゼルス・フィル、ニューヨーク・フィル、パリ管、コンセルトヘボウ管、サンフランシスコ響、スイス・ロマンド管、サンクトペテルスブルク・フィルなど、世界の最も重要なオーケストラから招聘されており、ピエール・ブーレーズ、リッカルド・シャイイ、クルト・マズア、ズピン・メータ、ケント・ナガノ、サイモン・ラトルなどと共演を重ねている。

「ハリウッド・ボウル」、「タングルウッド」、「ラヴィニア」、「グシュタート」、「ラインガウ」、「ヴェルピエ」、「BBCプロムス」など世界各地の音楽祭にも頻りに招かれ、室内楽ではマルタ・アルゲリッチ、ユーリ・バシメット、エフゲーニ・キーシン、ミーシャ・マイルスキー、ミハエル・プレトニョフらと共演している。また、パリのルーヴル美術館でのコンサートでは企画の一切を任せられ、ジブシー・ヴァイオリンのロビー・ラカトシュなどの演奏家仲間と室内楽を演奏、ライブ録音されたCDは賞に輝いた。

最近では、パガニーニの愛器として伝わる「カノーネ」を使用したジェノヴァでのユニークなリサイタル、マリス・ヤンソンス指揮バイエルン放響との8000人の聴衆を集めたミュンヘンのオデオン座公演、アテネ・オリンピックのオープニング・コンサートに出演するなど、多彩な活動が目まぐるしく行われている。

使用楽器は、シカゴ・ストラディヴァリウス協会から貸与された銘器、1708年製ストラディヴァリウス製作による愛称「ルビー」である。



ソプラノ:ソイル・イソコスキー
Soile Isokoski, soprano

フィンランド生まれのソイル・イソコスキーは、ヘルシンキにあるシベリウス・アカデミーを卒業し、1986年に同地でコンサートデビューを果たした。1987年にはBBC主催の「世界の声楽家コンクール」で第2位を受賞、「エリー・アメリング・コンクール」と「東京国際音楽コンクール」の声楽部門で第1位を獲得。ヘルシンキのフィンランド国立歌劇場における〈ラ・ボエーム〉(ミミ)でのオペラデビューの後、ウィーン、ベルリン、ミュンヘン、ハンブルク、ロンドン、ミラノ、パリのオペラ劇場や、ザルツブルク、フィンランドのサヴォンリンナ、エディンバラ、オランジュの音楽祭で観客や批評家の心を魅了し続けている。

ユッカ・ペッカ・サラステ、エサ・ペッカ・サロネン、小澤征爾、ジョン・エリオット・ガーディナー、コリン・デイヴィス、ズピン・メータ、ダニエル・バレンボイム、サイモン・ラトル、ベルナルト・ハイティンク、リッカルド・ムーティなど著名指揮者と共演。また幅広いレパートリーの持ち主である彼女は、専属伴奏ピアニストのマリタ・ヴィータサロと共に、定期的によりサイタルも開いている。こうした演奏活動のために彼女はロンドン(ウイグモアホール)、パリ、アムステルダム、ベルリン(フィルハーモニー・ホール)、ミュンヘン、ウィーン(楽友協会ホール)、ローマ、アテネ、モスクワ、サンクトペテルブルクや東京へと足を運んできた。

録音した作品には、シューベルトやシューマンのものと共に、スカンジナビア諸国出身の作曲家の作品が数多く含まれている。最近の録音は、マレク・ヤンコフスキ/ベルリン放送交響楽団と共演したリヒャルト・シュトラウス〈4つの最後の歌〉で、グラモフォン・アワードのエディターズ・チョイス賞を受賞しており、今回のツアーでの共演が大いに期待される。また、バリトン歌手ポー・スコウフスとマリタ・ヴィータサロとの共演で、オンディーヌ・レーベルでフーゴ・ヴォルフの〈イタリア歌曲集〉を録音している。

フィンランド音楽への多大なる貢献に敬意を表して、イソコスキーは2002年12月にプロ・フィンランディア勲章を授与されている。

NHK Symphony Orchestra, Tokyo

NHK交響楽団の歴史は、1926(大正15)年10月5日に日本初のプロ・オーケストラとして結成された新交響楽団に遡る。その後、日本交響楽団の名称を経て、51(昭和26)年に日本放送協会(NHK)の支援を受けるとなり、NHK交響楽団と改称した。この間、ドイツからジョセフ・ローゼンストックを専任指揮者として迎え、日本を代表するオーケストラとしての基礎を築く。演奏活動の根幹となる定期公演は27(昭和2)年2月20日の第1回予約演奏会に始まり、第2次大戦中も中断することなく続けられた。以来、今日に至るまで、ヘルベルト・フォン・カラヤン、ヨーゼフ・カイルベルト、エルネスト・アンセルメ、ロヴロ・フォン・マタチッチなど世界一流の指揮者を次々と招聘、また、話題のソリストたちと共演し、歴史的な名演を残している。

近年N響は、年間54回の定期公演(NHKホール、サントリーホール)をはじめ、全国各地で約120回の演奏活動を行っている。その演奏は、NHKテレビジョン、FM放送で全国に放送されるとともに、国際放送を通じて欧米やアジアにも紹介されている。また、セミ・ステージ・オペラなどの企画、委嘱作品の充実、メジャー・レーベルへのCD録音など、その活動ぶりや演奏は国際的にも高い評価を得ている。海外公演は1960年以来、通算27回目となる。

現在、N響が擁する指揮者陣は、2004年9月から第2代音楽監督に就任したウラディーミル・アシュケナージをはじめ、名誉音楽監督シャルル・デュトワ、桂冠名誉指揮者ヴォルフガング・サヴァリッシュ、名誉指揮者オットマール・スウィトナー、ホルスト・シュタイン、ヘルベルト・ブロムシュテット、正指揮者 岩城宏之、外山雄三、若杉弘。また、ネルロ・サンティ、スタニスラフ・スクロヴァチェフスキ、準・メルクル、ファビオ・ルイーゼら、多彩な実力派たちが定期的に客演している。